

丹波地域高校 卒業生答辞 (下) (敬称略)

篠山東雲

3年前、真新しい制服に身を包み、新しい仲間と不安が入り交じる中、入学しました。入学後すぐのオリエンテーション合宿で友だちとの絆を深めていきました。授業では本格的に農業実習が始まり、小学生以来の田植えをしました。



思い出や学び糧に前へ

2年生では、類型活動とがありました。あっという間に最終学年。本格的に進路を考え、熱いグータッチを交わし、人の人から好評を得ることも毎日、放課後遅くまで残って発表準備を頑張りました。本番はとておいても丁寧に指導していただき、うまくできたときは一緒に喜んで、失礼を人生の糧とし、力強

けを求めると「先生の右でしたが、やるなら恥れの類型に合った研究を手とグータッチしたら絶ずかしさを捨てて全力で、全て自分で進めない対合格するで、力がまみやろう」といって先生と、いけなため苦労しながら切ろう」と思い、乗り、在校生の皆さんの支えがえってこわい」と笑の約束を守り、全力で楽しめた。何度も「諦めよう顔で言われ、私は先生としないでやりきり、たさかな」と思いつき、先生方は、このクラスは、私たちの大きな力となり、かわい後輩の存在は心のよりどころになるように、一人ひとりが「きげんなクラス」に、今、大きな壁にぶつかることもあるでしょう。各教科や農業実習にう。しかし、後輩の皆さんも丁寧に指導していただき、うまくできたときは一緒に喜んで、失礼を人生の糧とし、力強

2025年3月9日

丹波新聞